

# 県民の友

発行 和歌山県 知事公室 広報公聴課 〒640 和歌山市小松原通1の1☎0734(32)4111

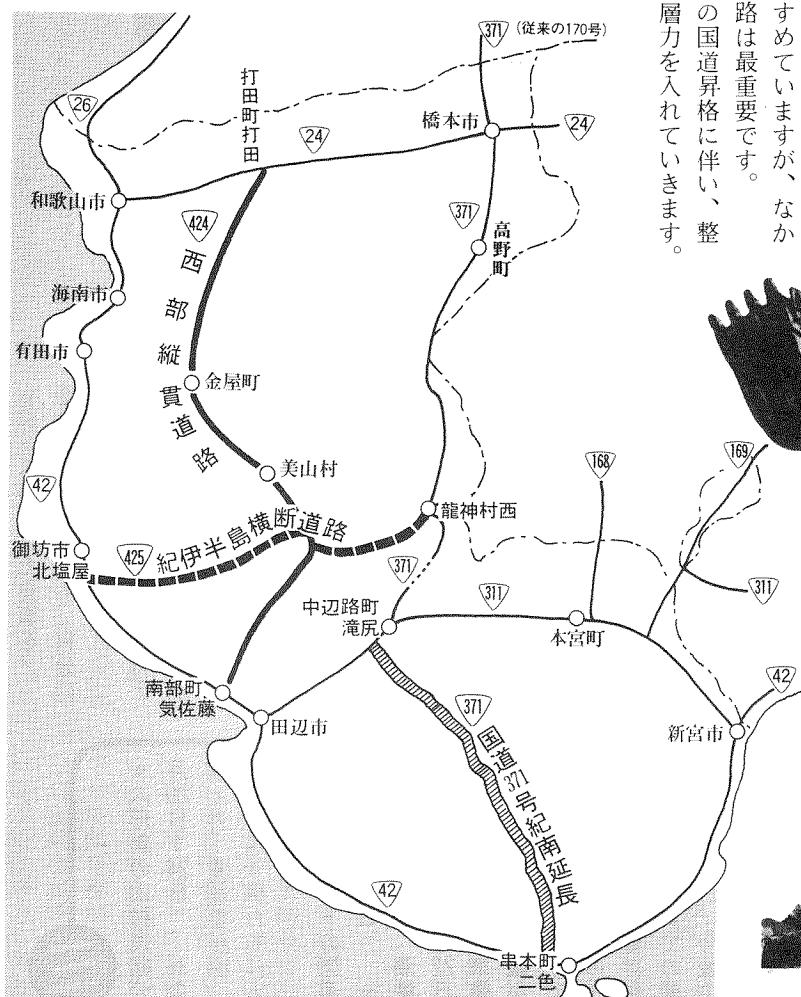
656年  
月号

不自由を  
皆でわけあう  
明るい社会

“完全参加と平等”  
ことしは国際障害者年



国道昇格ルートの略図

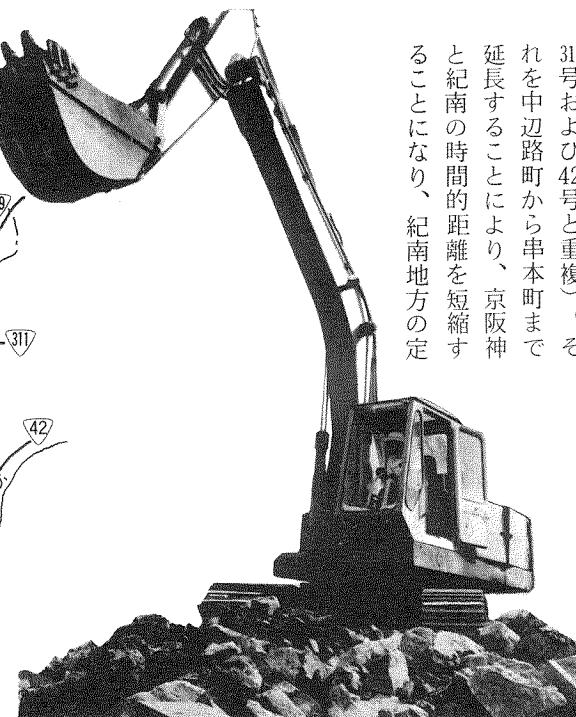


その一つは、紀北から紀中にかけて山間部を走る「西部縦貫道路」。二つめは、紀中を海岸線から山間部へと横断する「紀伊半島横断道路」。そして、三つめは、中辺路町から串本海岸へ南下する「国道371号の延長」。

この三つのルートの国道昇格が、去る四月二十日、国道審議会で答申され、統いて閣議でも決定。正式には、昭和五十七年四月から県管理道路として内陸部の国道延長が今までの二倍にふえ、粗かつた網の目がぐんと細くなるわけです。

従来、県道として、改良、舗装、橋を新設する場合などに活力を与えるための条件整備をすすめていますが、それでも道路は最重要です。

今回の国道昇格に伴い、整備に一層力を入れていきます。



高野山から一気に串本海岸へ！「国道371号の紀南延長」

現在の国道371号は、橋本市から田辺市まで（一部、国道311号および42号と重複）。それを中辺路町から串本町まで延長することにより、京阪神と紀南の時間的距離を短縮することになり、紀南地方の定

住構想の実現にも寄与するこ

過疎化に歯止めをかけ、経済、産業の発展を——と沿線の市町村および県が手をたずさえ、強く国に働きかけていた県道の国道昇格が決まりました。

このルートは国道424号となり、紀北と紀中の両地域をより密接に結ぶとともに、京阪神の経済・文化圏との接続の意味も含んでおり、さらに、国道42号のバイパス道路としての役割も果たすことになります。

## 県の内陸部に “新動脈” 県道3ルートが国道に！



一日も早く、県内すべて、このような整備された道路で結びたいもの。

「椿山ダム」の建設に伴い県道を付け替え中。  
この道路も国道424号になる。

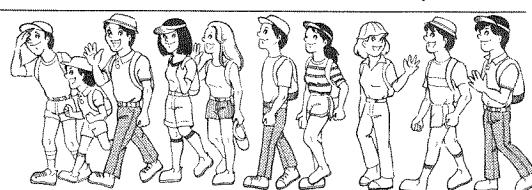
(日高郡美山村地内)

### “みんなで守ろう みんなの自然”

(瀬戸内海国立公園)  
和歌山市加太・友ヶ島で 第23回 自然公園大会開催 7月27日(月), 28日(火)

豊かな自然と風土を愛し、尊び、科学精神をつかおう——と国立公園地内で毎年開催されている自然公園大会。

本県で開かれる大会に、あなたも野外活動ハイキングの部で参加しませんか。



参加者募集

野外活動ハイキングの部(56年度第1回テクコロジー)

開催日 7月28日(火)

受付場所と時間 和歌山市加太深山(加太国民休暇村深山園地)  
当日の朝7:30~8:20

コース 深山園地→高森山一大川集落→大川峠→深山園地

約10km

宿泊申込 官製往復ハガキに住所、氏名、人員、男女別、電話番号、自動車使用の有無を記入。6月15日までに和歌山市7番丁2 和歌山市観光課へ。



国際障害者年の大きな目的の一つに「障害者が社会生活に十分に参加できるように、援助しなければならない」旨が掲げられています。盲ろう、養護学校に在籍している子供たちも、小中学

の有無にかかわらず、子供たちがみんな健やかに成長できる社会を一日も早く作り上げたいのです。

### 社会の援助が大切

昭和五十五年度の統計でみると、本県には、特殊学級が小中学校あわせて全部で三百六十八学級設置され、二千三百六十人の児童、生徒が在籍しています。

この特殊学級は、少人数で構成されていますが、子供たちは、「原学級」とか「親学級」とか呼ばれる大きな集団の中で学んだり、小集団学級で、きめの細かい指導を受けるなど、それぞれの障害に即した多様な教育的配慮を受けています。

特殊学級には、弱視、難聴、知恵おくれ、言語障害、情緒障害、虚弱、肢体不自由、というように七種類あります。

この特殊学級は、少人数で構成されていますが、子供たちは、「原学級」とか「親学級」とか呼ばれる大きな集団の中で学んだり、小集団学級で、きめの細かい指導を受けるなど、それぞれの障害に即した多様な教育的配慮を受けています。

貢、ろう、養護学校に在籍する子供たちよりも障害の程度が軽い子供たちは、小学校の特殊学級で教育を受けています。

特殊学級には、弱視、難聴、知恵おくれ、言語障害、情緒障害、虚弱、肢体不自由、と

いうように七種類あります。

この特殊学級は、少人数で構成されていますが、子供たちは、「原学級」とか「親学級」とか呼ばれる大きな集団の中で学んだり、小集団学級で、きめの細かい指導を受けるなど、それぞれの障害に即した多様な教育的配慮を受けています。

貢、ろう、養護学校に在籍している子供たちは、夏休みには帰省します。そして新学期には学校に戻ってくるのですが、その顔の白さを見て、先生たちは悲しくなると言います。

休み中、外に出て遊ぶ機会がなかったのです。車がひんぱんに行き来する道は、障害児の外出を拒んだのです。そして、障害児に対する不当な偏見が、障害児を家に閉じ込めていたのです。

この子供たちが、真っ黒に日焼けした顔で、元気に学校に戻るには、社会の理解がどうしても必要なのです。特に、障害を持つていることが、外見的にはわからない子供たちがいます。これらの子供たちへの誤解が悲しい結果を生み出すことになります。

ことしは国際障害者年。障害児がみんな健やかに成長できる社会を一日も早く作り上げたいのです。

## 障害児教育

下

助け合おう愛の手で  
“完全参加と平等”



国際障害者年

完全参加と平等を実現するために……

(その7)



国際障害者年

